

## 第4回 2011年7月出発 参加者

### ●安富 隆氏さん、ホスト: ソウル大学校

---

#### 1. 応募したきっかけ

SI の存在を知ったのは、第3回 SI に研究室の先輩の参加が決まったときでした。私は以前から韓国に興味があったので、第4回の SI には必ず参加したいと、そのときから考えていました。

また、ホスト研究室は、私の研究と非常に関係のある研究をしていたので、今後の日本での研究の助けになると考え、参加を決めました。

#### 2. 事前準備

研究については、事前にホスト研究室の方と、メールで相談しました。ただ、具体的な研究計画に関しては、到着してからになってしまい、実験開始までに時間がかかってしまったので、より入念な準備をしておけばよかったと思いました。出来れば、具体的な実験のスケジュールまで、現地に行く前に立てることをお勧めします。

外国語については、韓国語を、3年ほど日本で勉強していたので、特に新しくしたことはなかったです。

#### 3. 現地研修

ホスト研究室では、Mg 合金押出材の機械特性に関する研究を行いました。実験は、使用したことがない実験装置を使用したため、研究室の学生の助けを借りて行いました。研究室の学生は非常に親切で、不自由なく研究を行うことができました。

また、研究室での研究が終わった後、研究に対する考え方、将来の展望、日韓関係について等、現地の学生と色々なことを話しました。私が強烈に感じたのは、韓国の学生のモチベーションの高さと、自国に対する誇りです。私自身見習うべき部分が多くあったと思います。

#### 4. この研修を通じて得たもの

研究に関しては、ホスト研究室とのコネクションを作ることが出来たのが、最も大きかったと思います。私の研究室では、Mg 合金の製造、加工を行うことが出来ませんが、ホスト研究室の協力を得たことで、多種の試験片を

作ってもらうことが出来るようになりました。これにより、今後の研究の幅が大きく広がりました。

また、韓国において、多くの友人ができました。彼らとは、今後も連絡を取り合い、関係を続けていきます。日本以外の国において、ある程度の時間を共にし、友人を作る機会はそう多くはないと思います。このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝しています。

#### 5. 参加する人へのアドバイス

第4回 SI に参加して、外国語の重要性を痛感しました。やはり、会話が出来るこそ、多くのことを語り、考えを共有することが出来ます。英語が苦手な人も、現地に行くまでに最大限の努力をしてほしいと思います。そうすれば、現地で、より多くのものを得ることが出来ると思います。

私の体験談を見ている人で、SI に参加しようかどうか迷っている方。ぜひ、応募してください。海外で、このような貴重な経験をやる機会はそう多くはありません。また、学生の間に海外で、生活、研究をすることは非常に重要なことだと思います。

